

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870200908
法人名	株式会社 シンコー
事業所名	ハートフルケアホーム 青空
所在地	今治市南高下町2丁目2-67
自己評価作成日	平成 26 年 10 月 3 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 10 月 17 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ●お年寄りが食べ易い残食の少ない食事作りに取り組んでいます。和食を中心に薄味で彩りや季節感に注意し、少量ずつ品数を多くしています。残食は少なく皆さん美味しいと喜んで頂いています。 ●毎日入浴の時間を設けています。入浴することで気分転換にもなり入浴後のんびりした気分を過ごして頂いています。更衣も毎日行い、清潔に努めています。 ●毎日散歩をしています。外を歩くことで脚力の強化を図ると共に、気分転換を図り、また、地域の人と触れ合うことも多くなります。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>市内の幹線道路から少し入った新興住宅地に、鉄骨4階建ての共同ビルの2階と3階の部分に利用者の居室と共有スペースがある。敷地は道路に囲まれているため、どの居室の窓からは眺めがよく、リビングダイニングには南向きの窓から燦々と太陽の光が降りそそいでいる。避難階段に通じる勝手口は開け放たれていることが多く、風通しが良く建物内でも季節を肌で感じられる。事業所では外気浴が利用者にも良い刺激となることを熟知しており、日頃から利用者全員での散歩を日課としている。開設後10年になる事業所であるが、管理者が交代したことを契機に新たなスタートを切るように準備を始めている。理念の再確認と共有化の強化、近所付き合いの見直し、新たな介護計画で利用者の生活のリフレッシュなどを施設長は考えている。長年の運営にはキャリアがあるが、介護サービスを足元からもう一度見直している姿勢は、利用者のことを考えた強い向上心の表れを伺うことができる。施設長と職員は絶えず利用者の生活の質を考えて支援している事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 ハートフルケアホーム青空

(ユニット名) 春

記入者(管理者)
氏名 村上 佐月

評価完了日 平成 26 年 10 月 3 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 自分たちで「自分がして欲しいケア」と「自分がして欲しくないケア」について書き出しまとめ作った理念をホームの各所に提示しいつでも確認できるようにしている。また、名札の裏にも記載しているが名札にて確認する機会は少ない。</p> <p>(外部評価) 前施設長と職員が話し合い、事業所独自の理念を作成している。新任施設長はその理念を受け継ぎ、介護の基本として日常の業務に勤しんでいる。以前は毎朝の朝礼時に唱和をして内容を確認していたが、交代後はその機会が減ってきている現状がある。施設長が交代したことを機に、理念の意味も含めて職員間で話し合い再認識することを検討している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 自治体に加入し、ホームを集会や子供みこしの休憩場にして頂いたり、公園の掃除にも参加している。ご近所の方が季節のお野菜やスズムシなどを届けてくださることもある。また、毎日の施設周辺の散歩時挨拶を交わすなど地域の一員として地域と日常的に交流している。</p> <p>(外部評価) 事業所が開設して10年が経過し、毎日利用者と一緒に散歩し積極的に近隣住民に挨拶をしていることから、顔馴染みの住民も増え、野菜などの差し入れをいただく関係性も生まれている。事業所は自治会に加入し地域の清掃への参加や事業所を会議等の場に提供している。現在はイベントが中心の交流が多いため、施設長は地域に利用者と一緒に出ていくことを検討している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 散歩時お話ししたり施設に来られた時に認知症の方への声かけ、見守り、寄り添う方法などを見て頂いたり説明したりして、自然に認知症の方を理解して頂けるよう努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議では業務報告や施設の取組みを報告している。また民生委員さんには自治体の情報提供や意見を頂いたり家族さんには家族さんの思いや意見を聞かせて頂いたり市職員さんには専門的な意見や他施設の情報を聞かせて頂いたりしている。そこでの意見は報告し、サービスの向上に活かしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は家族、自治会、市担当者等の参加を得て開催している。施設長が交代したこともあり、現在は前任者の会議運営を踏襲しながら開催しているが、参加者の多角的な呼びかけや議題を利用者のサービスに直結した内容に変更していくことを検討している。10年間の前任者の取組みを変更していくことは大変と思われるが、新しい施設長の意欲に期待したい。</p>	<p>会議への参加者を柔軟に増やし、活発な意見交換が行われサービスの向上に繋がることを期待したい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市町村担当者は運営推進会議に参加くださり、サービスの取組みを伝えると共に情報や意見を頂いている。又施設運営上の質問や相談にもものって頂いたり、相談を受けたりして協力体制を築くよう取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加し、事業所の実情を把握してもらい意見交換をしている。事業所の10年のキャリアと同法人が市内でもう1か所事業所を開設していることから、市担当者とは会うことが多く顔馴染みの関係となっている。事業所は運営上で困難が生じた場合には市担当者に相談しており、良好な協力関係が築けるよう取り組んでいる。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 玄関は施錠しない、行動制限はしない、ベッドの四方策はしない、過剰な向精神薬は使用しないなど利用者の誇りや尊厳には注意を払っている。危険防止については声かけの工夫、見守り、環境整備等、身体拘束をしないという方針でケアに取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 職員は社内研修等で理解して身体拘束をしないケアに取り組んでおり、訪問調査日には秋の穏やかな日差しの中、利用者全員がゆったりとした時間を過ごされていたことから伺うことができる。「何気ない職員の声かけも拘束になる場合がある」という施設長の考えのもと、言葉での拘束にも気をつけ、事前に説明をして十分に配慮された声かけをしている。また、事業所の出入り口は開放している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修に参加したり資料を読んだり話し合ったりして虐待について学んでいる。虐待は絶対に許さない、と強い気持ちを職員は持っており職員全体で防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在制度を利用されている方が1名おられるので理解は出来ているがと思われるが、権利擁護については、今後さらに研修等で理解を深めていきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際にはホームの方針や料金などご本人・ご家族を交えて十分な説明を行い、不安や疑問点などもお尋ねしお答えして十分に理解して頂いた上で契約を行っている。解約の際にも十分に話し合い納得した上で行なっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 2ヶ月に1回の運営推進会議でご家族の意見を伺ったり、面会時に、意見や要望をお話いただけるよう努めている。又、利用者様とは普段のコミュニケーションより要望を伺っている。そして、それらを随時話し合い、運営に反映させるよう努めている。	
			(外部評価) 事業所での生活が長くなると、家族等にいくら丁寧に声かけをしても「お任せします」という返答が多くなってきている。家族に利用者の生活の様子が分かるよう毎月手紙を書くことが、面会時に家族からの話しやすさにも繋がっており、何気ない雑談から家族の本音を聞きだせることもある。家族から出された意見は、職員間で話し合うなど反映できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見 意見や提案を聞く機会を設け、反映させてい る	<p>(自己評価) 普段から職員は運営上の意見や提案を代表者や管理者に気 軽に言っており話し合いはよくできている。運営に反映さ せてるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 本社は県外にあるため、職員が法人代表者と面談する機会 は少ない。それを補うため法人では、代表者と職員を繋ぐ 縁の下の力持ち的な役割を担う部長の役職を設け、今治市 にあるもう1つの事業所と併せた統括業務を行っている。 職員は部長や施設長に意見を言いやすく、出された意見は 運営に反映できるよう努めている。対応できない場合には 部長が本社との連絡調整を行うなど、職員との距離的な問 題を解決するよう配慮している。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時 間、やりがいなど、各自が向上心を持って 働けるよう職場環境・条件の整備に努めて いる	<p>(自己評価) 代表者は私達の勤務状況や努力をよく見てくれており、給 与・労働時間・やりがいなどに気を配ってくださってい る。各職員の意欲や力量をよく見極め、研修なども勧めて くれている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を 受ける機会の確保や、働きながらトレーニ ングしていくことを進めている	<p>(自己評価) このホームで働きながら色々な資格を取得した職員は大勢 いる。また、いろいろな研修があれば提示したり情報提供 してくれたり勧めたりする。シフトも優先的に組ん でくれ積極的に受講できるような体制をとって下さる。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流す る機会をつくり、ネットワークづくりや勉 強会、相互訪問等の活動を通じて、サービ スの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 今治市グループホーム交流会があり積極的に参加させて頂 いている。そこで同業者と交流して勉強会やネットワー クづくりをしてサービスの質の向上に努めている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が 困っていること、不安なこと、要望等に耳 を傾けながら、本人の安心を確保するた めの関係づくりに努めている	<p>(自己評価) サービスを利用する段階では前もって家族様や前ケアマネ ジャー様から情報を頂き、本人様との面談で不安な事・要 望等よくお話を伺うよう努めている。また、ご利用前に一 緒に食事をして頂いて安心した関係を結んだ上で利用頂け る様努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族様とは初期の面談を必要に応じて数回行い、十分にお話を伺い、なんでも話せるような関係を培いながら今後のことを一緒に考えていくように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 面談時本人様と家族様に良くお話を伺い、一番困っていることなどをお聞きし、必要な支援を見極め、介護計画書をたて、支援して行くよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者様とは一個人として対等の立場で接するように努めている。長く人生を生きてこられた方なので教えて頂く事も多い。お互い助け合い信頼しあえる関係を築けるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族様の来設時、家族様とお話させて頂くことも多く介護の喜びや苦しみをお話頂けることも多い。また、家族様に、一ヶ月に一度の日常生活報告書などで本人様のご様子や職員の気持ちを伝えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご利用者は昔のお話をよくして下さい。ドライブ時には馴染みの場所を通ったり、馴染みの人が尋ねてきてくださった時には少し一緒にお話させて頂いて、又来て頂ける様配慮したりして、馴染みの関係が途切れないよう、支援に努めている。 (外部評価) 昔のことを覚えている利用者が多く、職員は利用者の話しの聞き役に徹し、馴染みの関係を把握することに事業所では力を入れている。利用者から聞いた自宅や場所に出かけられるよう支援しており、人や場の関係性を細やかに思い出すこともある。馴染みの関係を利用者の記憶から途切れないようにする取組みに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者様と一緒に食事をしたり共同作業やレクをして行く中で自然に理解し助け合っているが時にはトラブルもある。職員はご利用者同士の相性や関係をよく把握しており、席等の配慮をしながら見守っている。また、一緒に輪の中に入り、利用者様が孤立せず仲良く暮らしていけるよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院された場合でもお見舞いや面会に行ってお話をしたり、転所の場合でもいつでも相談に応じられる事を伝え、関係性を切らない様努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々のコミュニケーションを大切にし、何気ない会話の中から思いや暮らし方の希望・意向の把握に努めている。意志疎通の困難な御利用者は、日頃の表情、態度などから思いをくみ取る様努めている。 (外部評価) 日常生活の中で利用者の思いや希望を聞くよう努めており、職員は利用者との雑談にも積極的に加わっている。利用者の重度化に伴い、職員は徐々に利用者が言いたいことを口に出さなくなることを実感しており、顔つきやしぐさ等で利用者の意向をくみ取るようにしている。また、生活歴を知ることにより、利用者本位の生活にも繋げている。聞き取った情報は職員間で共有するように努め、事業所全体で利用者の思いを理解することに力を入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人様やご家族様とお話を重ねたり、前サービス担当者に情報を頂いたりしてこれまでの暮らしの把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の生活の中から有する能力の把握に努めている。気づきがあれば記録・報告し、話し合い、その能力を生活の中に活かせるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画作成にあたっては、毎月職員全員がカンファレンス用紙に気づいた課題・原因・今後方針などを記入して提出し、ミーティングを行い、また、本人様や家族様の意見も頂き、作成している。 (外部評価) 職員全員から情報を集めて話し合い、利用者毎の担当者に確認しながら介護支援専門員が介護計画を作成している。職員からの情報は口頭ではなくカンファレンス用紙に記載して提出してもらい、情報の記録化にも努めている。定期的に職員全員でモニタリングを行っており、新しい職員を育成する機会にも繋がっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の利用者の暮らしや気づきは、話言葉も含めて具体的に個別記録に記入するよう努めている。必要に応じて記録を参考に家族様に相談し、ご意見を頂く場合もある。そして、職員間のケアの共有や介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 遠方に家族様が居られる方、一人暮らしの方、急病時、その他、それぞれに柔軟に支援するよう努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議で民生委員さんに地域の情報を頂いたり、町内会長さんにお話を伺ったりして地域の情報を得るようにしているが地域資源の活用や地域行事への参加は少ないので今後検討していきたい。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者様それぞれが本人・家族様ご希望のかかりつけ医を 持っておられ、ご家族あるいは職員と受診しており、情報 の交換もしっかり行なっている。	
			(外部評価) 利用者が希望するかかりつけ医を継続して受診することが できる。近隣にある往診可能な診療所と協力体制が築かれ ており、地域医療と上手に付き合っている事業所と言え る。家族が受診介助をできない場合は、部長や施設長等が 受診介助をしている。また、受診内容は家族に報告するな ど情報の共有をしている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 異常に気づいた場合には家族連絡の上、かかりつけ医受診 を行なっている。尋ねたいことがある時にはかかりつけ医 や嘱託医に相談している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時にはご本人の情報を提供している。また、お見舞い には頻繁に伺い、本人様の回復状況を伺うなど病院関係者 との情報交換に努め、速やかな退院支援に結びつけてい る。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所時には本人・家族様と話し合っており、同意書も頂い ている。事業所としてできる事、出来ないことについても 家族に説明している。基本的には、家族が望めばできる限 りの支援をしていく方針で話合っている。	
			(外部評価) 事業所では重度化や終末期には、事業所では「口から栄養 を摂取できなくなった場合の医療的ケアは行わない。」と いうことをはっきりと打ち出し、利用者や家族等に説明し 同意を得ている。今後は、医療的ケアも福祉が取り組むこ とも多くなる時代に突入してくることから、それも視野に 入れながら事業所としての責任を果たすケアに力を入れて いる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故発生時の対応については普段から職員に言い伝えている。研修にも参加しているが全ての職員ではないので今後、全ての職員が研修に参加し、実践力を身に付けることが出来るように努めたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 夜間想定訓練も実施、非難訓練は定期的に行っており、全職員が避難通路や方法を心得ている。地域の方には集会時の時に協力をお願いしている。常日頃から避難通路には物を置かないよう指示している。スプリンクラーや避難はしごの設置もある。 (外部評価) 避難訓練などの災害対策は回数を重ね、地域住民との協力体制が取れている。事業所は4階建ての建物の2階と3階部分にあり、避難経路も2方向用意している。職員は訓練の度に火災等の大災害は起こすべきではないと思いを新たにして防災意識を高めている。避難経路は日常的に利用者も利用している場所で、職員や利用者は迷いなく避難することができ安心感がある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入所の方は言葉に非常に敏感なので無意識な言葉がけにより不穏になる場合があるので言葉がけには注意している。子供扱い言葉になったり禁止の言葉になったりしないよう、言葉遣いや人格の尊重について今後も注意していきたい。 (外部評価) 各々の年齢の職員が、利用者の子どもや孫、友人など一人ひとりにあった役割を演じ、利用者を尊重した会話をしている。利用者が安心する地元のイントネーションで声かけている姿には、心が休まる思いがする。声かけを積極的に行う必要がある利用者や職員が聞き役に徹する利用者など、よく利用者のことを把握して支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の方がお話し易いように一対一でゆっくりお話を伺う姿勢と時間を大切にする様心掛けている。そして思いの表出があれば自己決定できるよう働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ご利用者、それぞれの方のその日の状態にあわせ、希望に添って暮らして頂けるよう支援しているが、難しい事もある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 毎日の服装はご自分で選んで着ておられる。支援の必要な方は職員が選んでいる。髪型もご家族様と一緒に馴染みの美容室に行かれ、好みの髪型にされる方も多く、また、好みの髪型を尋ねながら職員がカットする方もおられる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事専門の職員さんが利用者の方の好みをよく把握して下され、季節のものや変化に富んだ物をよく考え作って下される。利用者の方は、「食事が楽しみ・おいしい」と喜ばれている。ご利用者と職員はお話しながら一緒に食事をし、片付けは利用者の方がすすんで手伝って下される。 (外部評価) 施設長が「食事は自慢ですよ」と言うだけあり、贅沢をしているわけではないが思わず微笑んでホッとできる昼食であった。2人の調理専属の職員が2ユニット分を合わせて調理している。職員は利用者の食べている状態をよく観察し、献立の作成に活かしている。刻み食やとろみ付け等にも細やかに対応しており、評価することができる。また、外食に出かけることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 職員全員が利用者の方の健康状態をよく把握しており、貧血の方の栄養、浮腫の方の水分量などに気をつけている。刻み食・トロミ食等も状態に合わせて提供している。食事量・水分量・体重は記録しており異常の発見に役立っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後本人の能力に合わせて声がけ・見守り・介助にて全員の口腔ケアを行なっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を記入し、一人ひとりの排泄パターンを把握している。そして、日中、夜間も一人ひとりに合った時間にトイレ誘導し排泄支援をしている。	
			(外部評価) 利用者のその日の身体状況に合わせて、誘導してトイレで排泄できるよう支援している。排泄チェックから利用者毎のタイミングを推察し、トイレ等への移動にかかる利用者には早めに声をかけ誘導している。トイレへの誘導は、極力手を出さずに見守りをするなど利用者本位の柔軟な対応をしている。「トイレで排泄したいですね」という職員の言葉から、丁寧な支援ができていることが伺える。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事専門の職員が繊維質の多い野菜を多く取り入れるよう気を付けてくれている。それでも便秘のひどい方がおられ、食物や水分調整、運動への働きかけをしても改善がみられないので、現在、医師に相談の上薬の調整中である。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 基本的には毎日入浴できる。一人ひとりに合った方法で入浴を楽しんで頂いているが時々拒まれる時がある。違う職員が声がけしたりやタイミングをずらすなど工夫してお誘いしてもどうしても拒まれるときは本人の状態に合わせている。	
			(外部評価) 毎日、利用者全員が入浴できるよう支援している。施設長は「皆さん家では毎日お風呂に入っているでしょう」と当たり前を強調しつつ、丁寧な支援に努めている。時には入浴を嫌がる利用者もいるが、利用者に合わせて無理強いしないようにしている。ここでも「利用者に普通の暮らしを提供したい」という思いを実践している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ご本人の落ち着ける所で休息が取れるようホールの色々な場所にソファを置いており、自由に休息頂いている。また、夜眠れない方は日中の活動量を増やすなどして安眠に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服用する薬については職員は処方箋を確認し理解している。変更や注意があるときは申し送りをし記録に残している。服薬の効果や症状の変化については気がついたことを他職員に報告し、家族や医療機関に報告・相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ご本人の能力や意思により食事の片づけや洗濯物干し、テーブル拭きなど役割を持ち、張りのある生活に繋がるよう支援している。また、コーヒー・ドライブ・買い物など利用者様の希望に添って気分転換が図れる様支援しているが個人に合わせた楽しみごとについてはもう少し支援の必要があると感じている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩は毎日行なっている。家族の支援があれば行きたい場所への外出支援は行なっている。今後、地域資源の協力など得ながら家族の支援がない方もでかけられる様支援して行きたい。 (外部評価) 寒い日は重ね着をして、暑い日は水分補給に十分に配慮して帽子をかぶり、毎日、利用者全員で散歩に出かけている。散歩をすることにより外気に触れ、季節の移り変わりや時間を認識することができている。日頃から買い物に出かけたり、市民の森やのま馬ハイランドなどにドライブに行けるよう支援している。施設長は、これからは地域資源の利用も視野に入れ、より充実した外出支援に取り組む予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金は職員が管理している。外食やおやつ・欲しい物などの買い物にはご本人が一緒に行く場合も多い。今後、個人の能力に合わせて柔軟に対応していきたい。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 遠方の家族・親戚から手紙がよく届き、大変喜ばれる。また、知り合いから電話がかかってきて取り次ぐこともある。手紙やはがきのやり取りについて、今後、支援を考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 2階の窓からは青空が広がり、日光浴が出来るほど日が差し込んでいて明るい。台所では食事の美味しそうな匂いがしている。それを思い思いのソファでくつろぎながら眺めている。壁面には季節が感じられる様工作が飾られ、居心地良く過ごせるように配慮している。</p> <p>(外部評価) リビングダイニングのスペースはゆったり取っており、車いすの利用者の移動もスムーズである。少し大きめのテーブルは食事だけでなく、利用者がくつろぐ際にもそのまま活用することができる。南側には連続した窓があり、たっぷりとした太陽光が降りそそぎ、冬場でも暖かい。避難経路に繋がる北側のバルコニーの窓を開けると、爽やかな風が通り抜け、機械換気が必要ないと思えるくらいの居心地の良い共用空間となっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ホールには3箇所ソファが置かれており、ホールのざわめきから少し離れて静かになりたい時、日光浴しながら数人でおしゃべりをしたい時、他の皆さんの様子を伺いながら寛ぎたい時にそれぞれの場所でくつろげる様にしている。テーブルの席は状態を考慮し個人の席を定めている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室には仏壇・机・ソファ・テレビなど好みのものは何でも持ち込んでよいようになっている。お花や家族の写真・本など家族と相談して好みのものを持ってこられその人らしいお部屋で過ごして頂いている。</p> <p>(外部評価) 居室はベッドや収納用具などが備え付けられ、自宅から家具などの持ち込みの少ない利用者にも配慮している。利用者の身体状態や移動手段により居室の家具などのレイアウトが異なっているが、それぞれの居室の個性に繋がっている。敷地は道路に囲まれているため、どの居室の窓からも開放的な眺めである。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 各所に安全と自立のために手すりが設置され、家具も危険が無く行動し易いように配置している。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870200908
法人名	株式会社 シンコー
事業所名	ハートフルケアホーム 青空
所在地	今治市鯉池町2丁目2-67
自己評価作成日	平成 26 年 10 月 8 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 10 月 17 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ●お年寄りが食べ易い残量の少ない食事作りに取り組んでいます。和食を中心に薄味で彩りや季節感に注意し、少量ずつ品数を多くしています。残量は少なく皆さん美味しいと喜んで頂いています。 ●毎日、入浴の時間を設けています。入浴する事で気分転換にもなり、入浴後のんびりした気分で過ごして頂いています。更衣も毎日行い、清潔に努めています。 ●毎日散歩をしています。外を歩くことで脚力の強化を図ると共に、気分転換にもなり、また、地域の人と触れ合う事も多くなります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>市内の幹線道路から少し入った新興住宅地に、鉄骨4階建ての共同ビルの2階と3階の部分に利用者の居室と共有スペースがある。敷地は道路に囲まれているため、どの居室の窓からは眺めがよく、リビングダイニングには南向きの窓から燦々と太陽の光が降りそそいでいる。避難階段に通じる勝手口は開け放たれていることが多く、風通しが良く建物内でも季節を肌で感じられる。事業所では外気浴が利用者の良い刺激となることを熟知しており、日頃から利用者全員での散歩を日課としている。開設後10年になる事業所であるが、管理者が交代したことを契機に新たなスタートを切るように準備を始めている。理念の再確認と共有化の強化、近所付き合いの見直し、新たな介護計画で利用者の生活のリフレッシュなどを施設長は考えている。長年の運営にはキャリアがあるが、介護サービスを足元からもう一度見直している姿勢は、利用者のことを考えた強い向上心の表れを伺うことができる。施設長と職員は絶えず利用者の生活の質を考えて支援している事業所である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 ハートフルケアホーム 青空

(ユニット名) 夏

記入者(管理者)
氏名 村上 佐月

評価完了日 平成 26 年 10 月 8 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 自分たちで「自分がして欲しいケア」と「自分がして欲しくないケア」について書き出しまとめ作った理念をホームの各所に提示しいつでも確認できるようにしている。また、名札の裏にも記載しているが確認する機会は少ない。</p> <p>(外部評価) 前施設長と職員が話し合い、事業所独自の理念を作成している。新任施設長はその理念を受け継ぎ、介護の基本として日常の業務に勤しんでいる。以前は毎朝の朝礼時に唱和をして内容を確認していたが、交代後はその機会が減ってきている現状がある。施設長が交代したことを機に、理念の意味も含めて職員間で話し合い再認識することを検討している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 自治体に参加し、ホームを集会や子供みこしの休憩場にしように頂いたり、公園の掃除にも参加している。ご近所の方が季節のお野菜やスズムシなどを届けてくださることもある。また、毎日の施設周辺の散歩時挨拶を交わすなど地域の一員として地域と日常的に交流している。</p> <p>(外部評価) 事業所が開設して10年が経過し、毎日利用者と一緒に散歩し積極的に近隣住民に挨拶をしていることから、顔馴染みの住民も増え、野菜などの差し入れをいただく関係性も生まれている。事業所は自治会に参加し地域の清掃への参加や事業所を会議等の場に提供している。現在はイベントが中心の交流が多いため、施設長は地域に利用者と一緒に出歩いていくことを検討している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 散歩時お話ししたり施設にいられた時に認知症の方への声かけ、見守り、寄り添う方法など見て頂いたり説明したりして、自然に認知症の方を理解して頂けるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議では業務報告や施設の取り組みを報告している。また民生委員さんには自治体の情報提供や意見を頂いたり家族さんには家族さんの思いや意見を聞かせて頂いたり市職員さんには専門的や他施設情報を聞かせて頂いたりしている。そこでの意見は報告し、サービスの向上に活かしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は家族、自治会、市担当者等の参加を得て開催している。施設長が交代したこともあり、現在は前任者の会議運営を踏襲しながら開催しているが、参加者の多角的な呼びかけや議題を利用者のサービスに直結した内容に変更していくことを検討している。10年間の前任者の取組みを変更していくことは大変と思われるが、新しい施設長の意欲に期待したい。</p>	<p>会議への参加者を柔軟に増やし、活発な意見交換が行われサービスの向上に繋がることを期待したい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市町村担当者は運営推進会議に参加くださり、サービスの取り組みを伝えると共に情報や意見を頂いている。また施設運営上の質問や相談にのって頂いたり、相談を受けたりして協力体制を築くように取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加し、事業所の実情を把握してもらい意見交換をしている。事業所の10年のキャリアと同法人が市内でもう1か所事業所を開設していることから、市担当者とは会うことが多く顔馴染みの関係となっている。事業所は運営上で困難が生じた場合には市担当者に相談しており、良好な協力関係が築けるよう取り組んでいる。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 玄関は施錠しない、行動制限はしない、ベッドの四方柵はしない、過剰な向精神薬は使用しないなど利用者の誇りや尊厳には注意を払っている。危険防止については声かけの工夫、見守り、環境整備等、身体拘束をしないという方針でケアに取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 職員は社内研修等で理解して身体拘束をしないケアに取り組んでおり、訪問調査日には秋の穏やかな日差しの中、利用者全員がゆったりとした時間を過ごされていたことから伺うことができる。「何気ない職員の声かけも拘束になる場合がある」という施設長の考えのもと、言葉での拘束にも気をつけ、事前に説明をして十分に配慮された声かけをしている。また、事業所の出入り口は開放している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修に参加したり資料を読んだり話し合ったりして虐待について学んでいる。虐待は絶対に許さない、と強い気持ちを職員は持っており職員全体で防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護の制度についてはあまり理解はされていないと思われるので今後研修を進めて行きたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際にはホームの方針や料金などご本人・ご家族を交えて十分な説明を行い、不安や疑問点などもお尋ねしお答えして十分に理解して頂いた上で契約を行っている。解約の際にも十分に話し合い納得した上で行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 2ヶ月に1回の運営推進会議でご家族の意見を伺ったり、面接時に、意見や要望をお話頂けるよう努めている。また、利用者とは普段のコミュニケーションより要望を伺っている。そして、それらを随時話し合い、運営に反映させるよう努めている。 (外部評価) 事業所での生活が長くなると、家族等にいくら丁寧に声かけをしても「お任せします」という返答が多くなってきている。家族に利用者の生活の様子が分かるよう毎月手紙を書くことが、面会時に家族からの話しやすさにも繋がっており、何気ない雑談から家族の本音を聞きだせることもある。家族から出された意見は、職員間で話し合うなど反映できるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 普段から職員は運営上の意見や提案を代表者や管理者に気軽に言っており話し合いはよくできている。話し合いの結果は運営に反映させるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 本社は県外にあるため、職員が法人代表者と面談する機会は少ない。それを補うため法人では、代表者と職員を繋ぐ縁の下の力持ち的な役割を担う部長の役職を設け、今治市にあるもう1つの事業所と併せた統括業務を行っている。職員は部長や施設長に意見を言いやすく、出された意見は運営に反映できるよう努めている。対応できない場合には部長が本社との連絡調整を行うなど、職員との距離的な問題を解決するよう配慮している。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 代表者は私達の勤務状況や努力をよく見てくれており、給与・労働時間・やりがいなどに気を配ってくださっている。各職員の意欲や力量をよく見極め、研修なども勧めてくれている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) このホームで働きながら色々な資格を取得した職員は大勢いる。また、色々な研修があれば提示したり情報提供してくれたり勧めてくれたりする。シフトも優先的に組んでくれ積極的に受講できるような体制をとって下さる。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 今治市グループホーム交流会があり積極的に参加させて頂いている。そこで同業者と交流して勉強会やネットワーク作りをしてサービスの質の向上に努めている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) サービスを利用する段階では前もって家族様や前ケアマネジャー様から情報を頂き、本人様との面談で不安な事要望等よくお話を伺うよう努めている。また、ご利用前に一緒に食事を頂いて安心した関係を結んだ上で利用いただけるよう努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族様とは初期の面談を必要に応じて数回行い、十分にお話を伺い、何でも話せるような関係を培いながら今後のことを一緒に考えていくように努めている。本人に入所を説得できるか不安だと家族様が言われ、お迎えに行った事もある。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 面接時本人様と家族様によくお話を伺い、一番困っていることなどをお聞きし、必要な支援を見極め、介護計画をたて、支援していくよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者様とは一個人として対等の立場で接するように努めている。長く人生を生きてこられた方なので教えて頂くことも多い。お互い助け合い信頼し合える関係が築けていると思う。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族様の来設時、家族様とお話させて頂くことも多く介護の喜びや苦しみをお話頂ける事も多い。また、家族さまに、一ヶ月に一度の日常生活報告書などで本人様のご様子や職員の気持ちを伝えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご利用者は昔のお話をよくしてくださる。知り合いの方が着てくださった時には一緒にお話させて頂いたり、又来て頂けるよう配慮している。 (外部評価) 昔のことを覚えている利用者が多く、職員は利用者の話しの聞き役に徹し、馴染みの関係を把握することに事業所では力を入れている。利用者から聞いた自宅や場所に出かけられるよう支援しており、人や場の関係性を細やかに思い出すこともある。馴染みの関係を利用者の記憶から途切れないようにする取組みに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員はご利用者同士の相性や関係をよく把握しており、席やレクレーションなどの交流時に配慮し、孤立しないよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院された場合でもお見舞いに行ってお話を伺ったり転所してもいつでも相談や支援に応じられることを伝えている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の何気ない会話やご家族のお話の中から本人様の思いや意向の把握に努めている。困難な場合は日頃の言動、表情などから思いを汲み取り検討している。 (外部評価) 日常生活の中で利用者の思いや希望を聞くよう努めており、職員は利用者との雑談にも積極的に加わっている。利用者の重度化に伴い、職員は徐々に利用者が言いたいことを口に出さなくなることを実感しており、顔つきやしぐさ等で利用者の意向をくみ取るようにしている。また、生活歴を知ることにより、利用者本位の生活にも繋げている。聞き取った情報は職員間で共有するように努め、事業所全体で利用者の思いを理解することに力を入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人様や御家族様とお話を重ねたり、前サービス担当者に情報を頂いたりしてこれまでの暮らしの把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 生活歴やご家族とのお話、また本人様との関わりの中から現状の把握に努め、一日の過ごし方、心身状況、有する能力を検討し自分らしく暮らして頂けるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 介護計画作成にあたっては、毎月職員全員がカンファレンス用紙に気づいた課題・原因・今後の方針など記入して提出し、ミーティングを行い、また、本人様や家族様の意見も頂き、作成している。</p> <p>(外部評価) 職員全員から情報を集めて話し合い、利用者毎の担当者に確認しながら介護支援専門員が介護計画を作成している。職員からの情報は口頭ではなくカンファレンス用紙に記載して提出してもらい、情報の記録化にも努めている。定期的に職員全員でモニタリングを行っており、新しい職員を育成する機会にも繋がっている。</p>	<p>介護計画に毎日チェックする項目を設定したり、数値化して分かりやすいモニタリングに工夫したりするなど、職員が正しく理解してサービスの向上に繋がることを期待したい。また、目標が達成できなかった内容などを明確にし、次回の介護計画に反映されることを期待したい。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 日々の利用者の暮らしや実践は、具体的に個別記録に記入するよう努めている。気づいた事は申し送りをして話し合ったりしながら介護計画の見直しに活かしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 遠方に家族様が居られる方、一人暮らしの方、急病時、その他、それぞれの方に合わせて柔軟に支援するよう努めている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議で民生委員さんに地域の情報を頂いたり、町内会長さんにお話を伺ったりして地域の情報を得るようにしているが、地域資源の活用や地域行事への参加は少ないので今後検討して行きたい。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	<p>(自己評価) 利用者様それぞれが本人・家族様ご希望のかかりつけ医を 持っておられ、ご家族あるいは職員と受診しており、情報 の交換もしっかり行なっている。</p> <p>(外部評価) 利用者が希望するかかりつけ医を継続して受診することが できる。近隣にある往診可能な診療所と協力体制が築かれ ており、地域医療と上手に付き合っている事業所と言え る。家族が受診介助をできない場合は、部長や施設長等が 受診介助をしている。また、受診内容は家族に報告するな ど情報の共有をしている。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している</p>	<p>(自己評価) 介護職員はご利用者の異常に気づいたら代表者や管理者の 報告し、相談して適切に受診できるように支援している。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 入院時にはご本人の情報を提供している。また、お見舞い には頻繁に伺い、病院関係者に本人様の回復状況を伺うな ど情報交換に努め、速やかな退院支援に結びつけている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入所時には本人・家族様と話し合っており、同意書も頂い ている。事業所としてできる事、出来ない事についても家 族に説明している。基本的には、家族が望めばできる限り の支援はしていく方針で話合っている。</p> <p>(外部評価) 事業所では重度化や終末期には、事業所では「口から栄養 を摂取できなくなった場合の医療的ケアは行わない。」と いうことをはっきりと打ち出し、利用者や家族等に説明し 同意を得ている。今後は、医療的ケアも福祉が取り組むこ とも多くなる時代に突入してくることから、それも視野に 入れながら事業所としての責任を果たすケアに力を入れて いる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故発生時の対応については普段から職員に言い伝えている。研修にも参加しているが全ての職員ではないので今後全ての職員が研修に参加し実践力を身に付けることが出来るように努めたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 夜間想定訓練も実施、避難訓練は半年毎に行なっており、全職員が避難通路や方法を心得ている。地域の方には集会の時に協力をお願いしている。常日頃から避難通路には物を置かないように指示している。スプリンクラーや避難はしごの設置もある。 (外部評価) 避難訓練などの災害対策は回数を重ね、地域住民との協力体制が取れている。事業所は4階建ての建物の2階と3階部分にあり、避難経路も2方向用意している。職員は訓練の度に火災等の大災害は起こすべきではないと思いを新たにして防災意識を高めている。避難経路は日常的に利用者も利用している場所で、職員や利用者は迷いなく避難することができ安心感がある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入所の方は言葉に非常に敏感なので無意識な言葉かけにより不穏になる場合があり、また、それぞれ状況が違うので言葉かけには注意している。子供扱い言葉になったり禁止の言葉の無いよう気をつけている。 (外部評価) 各々の年齢の職員が、利用者の子どもや孫、友人など一人ひとりにあった役割を演じ、利用者を尊重した会話をしている。利用者が安心する地元のイントネーションで声かけている姿には、心が休まる思いがする。声かけを積極的に行う必要がある利用者や職員が聞き役に徹する利用者など、よく利用者のことを把握して支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の方がお話し易いように一対一でゆっくりお話を伺う姿勢と時間を大切にしよう心がけている。そして、思いの表出があれば自己決定できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望に添って、それぞれのペースでその日の暮らしを支援するよう努めているが、難しいときもある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 毎日の服装はご自分で選べる方はご自分で選んで着ておられる。髪型は職員が好みの髪型を尋ねながらカットしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事専門の職員さんが利用者の方の好みをよく把握して下り下り季節のものや変化に富んだものをよく考えて作って下さる。ご利用者は「食事が楽しみ・おいしい」と喜ばれている。片付けはご利用者が手伝って下さる。 (外部評価) 施設長が「食事は自慢ですよ」と言うだけあり、贅沢をしているわけではないが思わず微笑んでホッとできる昼食であった。2人の調理専属の職員が2ユニット分を合わせて調理している。職員は利用者の食べている状態をよく観察し、献立の作成に活かしている。刻み食やとろみ付け等にも細やかに対応しており、評価することができる。また、外食に出かけることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 職員全員が利用者の方の健康状態をよく把握しており、水分量、刻み食、トロミ食など一人ひとりの状態に合わせて提供している。食事量・水分量・体重は記録しており異常の発見に役立っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後本人の能力に合わせて声がけ・見守り・介助にて全員の口腔ケアを行なっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 排泄チェック表を記入し、一人ひとりの排泄パターンを把握している。そして、日中・夜間も一人ひとりに合った時間にトイレ誘導し排泄支援をしている。足の立たない人もトイレで排尿・排便のある人は二人介助でトイレ誘導を行っている。</p> <p>(外部評価) 利用者のその日の身体状況に合わせて、誘導してトイレで排泄できるよう支援している。排泄チェックから利用者毎のタイミングを推察し、トイレ等への移動にかかる利用者には早めに声をかけ誘導している。トイレへの誘導は、極力手を出さずに見守りをするなど利用者本位の柔軟な対応をしている。「トイレで排泄したいですね」という職員の言葉から、丁寧な支援ができていことが伺える。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 食事専門の職員が繊維質の多い野菜を多く取り入れるように気をつけてくれている。それでも便秘がひどく水分調整・運動への働きかけをしても改善が見られなく5日は尾便が無いときには服薬している。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 基本的には毎日入浴できる。一人ひとりに合った方法で入浴を楽しんで頂いている。拒まれる時は違う職員が声がけしたりタイミングをずらすなど工夫してお誘いしている。それでも拒まれる時は本人の状態に合わせている。</p> <p>(外部評価) 毎日、利用者全員が入浴できるよう支援している。施設長は「皆さん家では毎日お風呂に入っているでしょう」と当たり前を強調しつつ、丁寧な支援に努めている。時には入浴を嫌がる利用者もいるが、利用者に合わせて無理強いしないようにしている。ここでも「利用者に普通の暮らしを提供したい」という思いを実践している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) ご本人の落ち着ける場所で休息が取れるようホールのいろいろな場所にソファやクッションを置いており、自由に休息頂いている。また、夜眠れない方は日中の活動量を増やすなどして安眠に繋げている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服用している薬については職員は処方箋を確認し理解するようにしている。変更や注意があるときは申し送りをして記録にも残している。服薬の効果や症状の変化については気がついたことは報告し合い、家族や医療機関に報告・相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ご本人の意思や能力により食事の片付けや洗濯物干し・テーブル拭きなどの役割を持ち、張りのある生活に繋がるように支援している。また、コーヒー・ドライブ・買い物など利用者様の希望に添って気分転換が図れる様支援しているが楽しみごとにおいてはもう少し支援の必要があると感じている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩は毎日行っている。家族の支援があれば行きたい場所への外出支援は行っている。今後、家族の支援が無くても地域資源の協力など得ながら家族の支援の無い方も出かけられるよう支援していきたい。 (外部評価) 寒い日は重ね着をして、暑い日は水分補給に十分に配慮して帽子をかぶり、毎日、利用者全員で散歩に出かけている。散歩をすることにより外気に触れ、季節の移り変わりや時間を認識することができている。日頃から買い物に出かけたり、市民の森やのま馬ハイランドなどにドライブに行けるよう支援している。施設長は、これからは地域資源の利用も視野に入れ、より充実した外出支援に取り組む予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金は職員が管理している。おやつや欲しい物・必要なものなどの買い物にはご本人と一緒にいく場合も多い。今後、能力に合わせて自分でお金を使う事など、柔軟に対応していきたい。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 遠方の家族や親戚から手紙がよく届き、大変喜ばれる。また、知り合いから電話がかかってくることもあつた。手紙やはがきのやり取りができるように、今後、支援をしていきたい。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 3階窓からは青空が満面に広がり、明るく、時に鳥が飛んでいるのが見える。居間はいつもテレビがついているが音量は低く比較的静かである。壁面には季節が感じられるかわい工作が張られ、トイレ、風呂、各部屋にはわかり易く表示がされ、居心地の良い空間となる様配慮している。</p> <p>(外部評価) リビングダイニングのスペースはゆったり取っており、車いすの利用者の移動もスムーズである。少し大きめのテーブルは食事だけでなく、利用者がくつろぐ際にもそのまま活用することができる。南側には連続した窓があり、たっぷりとした太陽光が降りそそぎ、冬場でも暖かい。避難経路に繋がる北側のバルコニーの窓を開けると、爽やかな風が通り抜け、機械換気が必要ないと思えるくらいの居心地の良い共用空間となっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ホールには自席のほかに2箇所ソファが置かれ日光浴をしたり身体を休め気分転換しながら寛いだり出来るようにしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居間には仏壇・机・ソファ・テレビなど好みのものは何でも持ち込んでよいようになっている。お花や家族の写真・本など家族と相談して好みのものを持ってこられ、その人らしいお部屋で過ごして頂いている。</p> <p>(外部評価) 居室はベッドや収納用具などが備え付けられ、自宅から家具などの持ち込みの少ない利用者にも配慮している。利用者の身体状態や移動手段により居室の家具などのレイアウトが異なっているが、それぞれの居室の個性に繋がっている。敷地は道路に囲まれているため、どの居室の窓からも開放的な眺めである。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 各所に安全のために手すりが設置され、家具も危険が無く行動し易いように配置している。</p>	